とことんだより

ほろむい認定こども園とことん 園長 鶴岡智美 2025.11.17

12月の行事予定は裏面をご覧ください。

職員に向けて、千葉副園長がたよりを出しています。
今回のテーマは『絵本の力』。
身近なお話ですので、皆さんにもご紹介いたします。

「こどものとも」を創刊した松井　直氏の言葉を河合隼雄氏、柳田邦男氏との対談集から拾いました。

冒頭、「絵本は子どもに読ませる本ではない」とは大変衝撃的です。

著者の原点と思われるのは、６人兄弟の上から５番目で、寝るときに読み物を読んでもらう時間が唯一母親を独占できる時間だったとも書いておられ納得します。

「幼児期に耳から本当に楽しい言葉の体験をしました。」との言葉につながります。

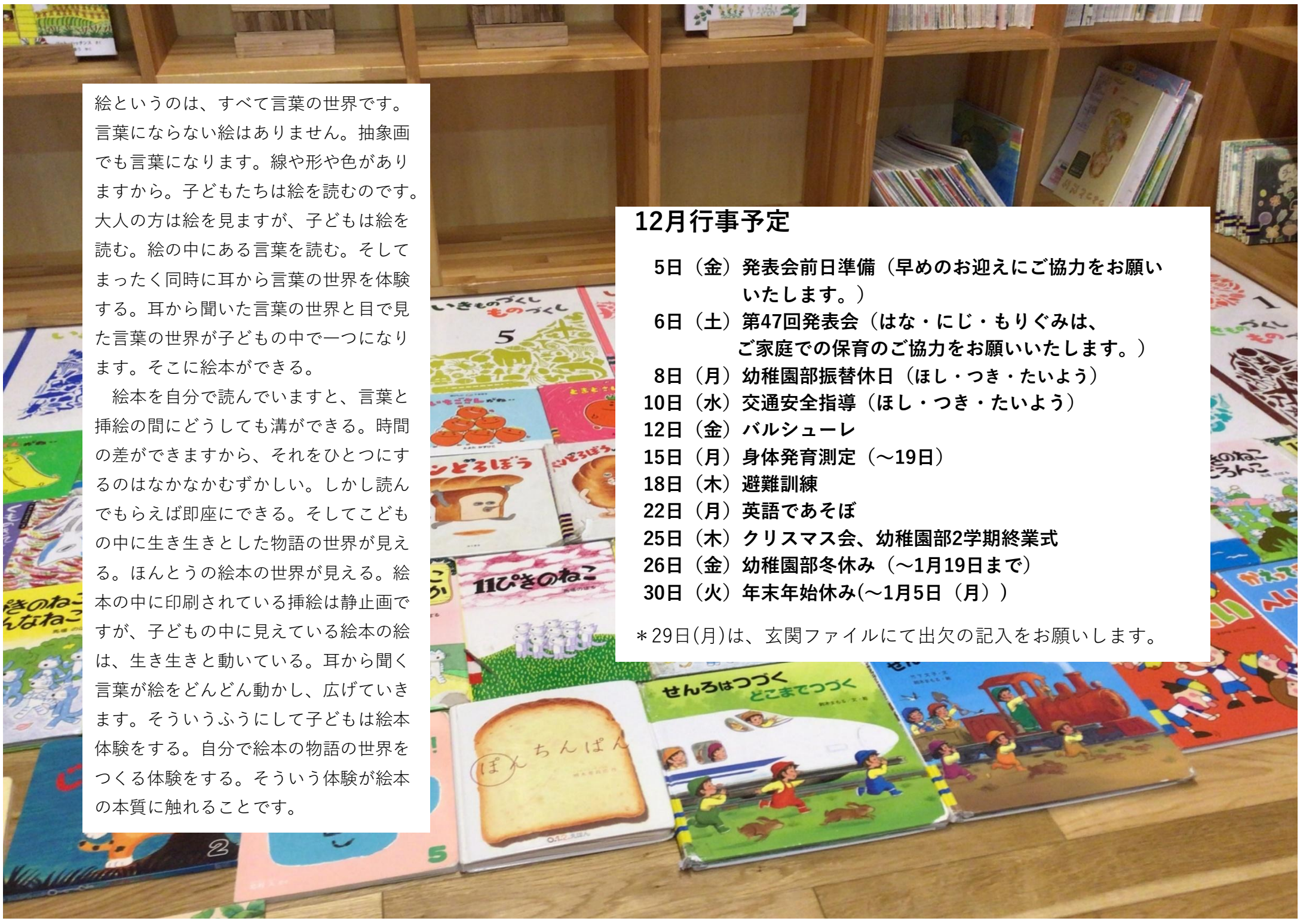
世の中にあふれる絵本のほんの一部にしか触れたことのない私ですが、絵本の深さ、広さを痛感する１冊です。こういう出会いが、私の「たくわえ」です。

私は絵本の編集者になって、絵本は子どもに読ませる本ではないという編集方針を第一に打ち出しました。じゃ、何ですかと言われたとき、大人が子どもに読んでやる本ですと。今でもその考え方は変えていません。絵本は子どもに読ませる本ではない。大人が子どもに読んでやる本です。たとえ、小学生、中学生であろうと、私は大学生にもよく読みましたが、大学生であろうと絵本を自分で読むときと読んでもらうときとでは、非常に違う印象を持つようです。

（中略）

つまり、絵本というのは、絵を見ながら読んでもらう時に不思議な働き、大きな世界をつくっていくんですね。皆さんはここにお見せするこの本が絵本だと思われるでしょうが、これは絵本の入り口だと思います。本当の絵本は別のところにできるんです。どういうふうにできるかというと、子どもが読者である場合は、子どもが自分で絵本を作るんです。つまり、耳で言葉を聞いて、目で絵本の挿絵を見ます。実は子どもは挿絵を見るのではなく、読んでいるんです。

裏面へ　↪



絵というのは、すべて言葉の世界です。言葉にならない絵はありません。抽象画でも言葉になります。線や形や色がありますから。子どもたちは絵を読むのです。大人の方は絵を見ますが、子どもは絵を読む。絵の中にある言葉を読む。そしてまったく同時に耳から言葉の世界を体験する。耳から聞いた言葉の世界と目で見た言葉の世界が子どもの中で一つになります。そこに絵本ができる。

絵本を自分で読んでいますと、言葉と挿絵の間にどうしても溝ができる。時間の差ができますから、それをひとつにするのはなかなかむずかしい。しかし読んでもらえば即座にできる。そしてこどもの中に生き生きとした物語の世界が見える。ほんとうの絵本の世界が見える。絵本の中に印刷されている挿絵は静止画ですが、子どもの中に見えている絵本の絵は、生き生きと動いている。耳から聞く言葉が絵をどんどん動かし、広げていきます。そういうふうにして子どもは絵本体験をする。自分で絵本の物語の世界をつくる体験をする。そういう体験が絵本の本質に触れることです。

12月行事予定

5日（金）発表会前日準備（早めのお迎えにご協力をお願いいたします。）
6日（土）第47回発表会（はな・にじ・もりぐみは、ご家庭での保育のご協力をお願いいたします。）
8日（月）幼稚園部振替休日（ほし・つき・たいよう）
10日（水）交通安全指導（ほし・つき・たいよう）
12日（金）バルシューレ
15日（月）身体発育測定（～19日）
18日（木）避難訓練
22日（月）英語であそぼ
25日（木）クリスマス会、幼稚園部2学期終業式
26日（金）幼稚園部冬休み（～1月19日まで）
30日（火）年末年始休み(～1月5日（月））

＊29日(月)は、玄関ファイルにて出欠の記入をお願いします。